



日進工具株式会社

～超硬小径エンドミルのトップランナー～

2014年3月期 第2四半期決算概要



2013年10月31日
(証券コード6157)

目次

1. 新体制における経営の現状

- P. 3 … 新体制の基本方針
- P. 4 … 成果を出しつつある領域
- P. 5 … 課題を抱えている領域
- P. 6 … アベノミクス政策下での事業環境

2. 2014年3月期2Qの業績

～ほぼ計画どおりの推移～

(進捗率:売上高98.1%、営業利益111.6%)

- P. 8 … エグゼクティブサマリー
- P. 9 … 重要なトピック
- P. 10 … 売上高の推移
- P. 13 … 売上総利益の推移
- P. 14 … 販管費の推移
- P. 15 … 経常利益の推移
- P. 16 … 損益計算書サマリー及び貸借対照表サマリー

3. 2014年3月期の業績見通し

- P. 19 … 業績予想見通し:期初計画を据え置き
- P. 21 … 2014年3月期の重点戦略
- P. 23 … 設備投資と減価償却費のトレンド

4. 最後に、マーケットの皆様へ

- P. 25 … 株主還元について(増配と株式分割)
- P. 26 … 一層開かれた株主総会を目指して
- P. 27 … 株価推移とバリュエーション
- P. 28 … IR情報サイトのご案内

<参考資料>

- P. 29 … ①創業時からの売上高・経常利益推移
- P. 30 … ②過去5年間の業績と主要データの推移



1. 新体制における経営の現状

新体制の基本方針

1. コアビジネスの更なる強化

- Made in Japanの徹底推進
- 当社独自の戦略でトップシェアを維持
- 将来的に経常利益率20%の高水準を目指す(現在15.9%)

2. グループ経営の効率化

- 牧野工業の新工場生産を軌道に乗せる
- 当面の間、大きな設備投資を実施せずROIを向上へ

3. 株主重視の経営

- 業績拡大に努め、将来的に配当性向のアップを目指す(現在20%)
- 質の高いIR活動の継続

成果を出しつつある領域

1. 高付加価値製品の順調な拡大: 経常利益率20%達成への礎

- CBNを中心に顧客からの支持を集める
 - ▶ 高難易度の生産を自動化し、多ロット注文に対応
 - ▶ 未取引顧客・新規顧客の裾野が広がる手応え
- CBNエンドミル、世界一の生産体制を確立する
 - ▶ 現在の5~7%の売上比率を10~15%まで高めていく

2. 香港現地法人の効果は大: 海外でのシェアアップ

- 5月より営業スタート
 - ▶ 当社初の海外現地法人でアジアでの物流拠点の役割を果たす
- 中国本土への販売がスムーズに
 - ▶ 税関での商品ストップのリスクが低減
 - ▶ 隣接する深セン市や東莞市はディーラーによるハンドキャリーも可能

課題を抱えている領域

1. 牧野工業の停滞

- 14/3期もまだ3千万円程度の営業赤字予想(売上高4億円)
 - ▶12/3期に買収し、13/3期に新工場を建設
- 販路の拡大を目指す
 - ▶主力製品は工具ケースを中心としたプラスチック製品
 - ▶日進工具と顧客が異なるため、販路拡大を模索する

2. ROIの低下

- 12/3期および13/3期は年間10億円の設備投資を実施
 - ▶減価償却費増加額:+31百万円(12/3期)⇒+92百万円(13/3期)
 - ▶営業利益率押し下げ度合い:-0.5%ポイント(12/3期)⇒-1.5%ポイント(13/3期)
- 14/3期より設備投資を6億円程度に抑制の方針
 - ▶減価償却費は14/3期でピークアウトへ

アベノミクス政策下での事業環境

1. デフレ脱却の兆候

- ▶ 8月に一部製品で値下げしたが、影響は軽微にとどまる
来期以降の価格競争の終焉を期待

2. 中小企業からの引き合いが活発

- ▶ ものづくり補助金1,000万円が後押し
(国家予算1,007億円:1,000万円を1万社に支給)

3. スマートフォン市場はさらに拡大へ

- ▶ iPhone5に期待



2. 2014年3月期2Qの業績

エグゼクティブサマリー(2Qまでの累計ベース)

売上高はほぼ計画どおり、利益面では
超過達成となるが前年同期には届かず

(百万円)

	2013年3月期 第2四半期	2014年3月期 第2四半期	上期予想	進捗率
売上高	3,102 (+6.4%)	3,069 (-1.1%)	3,130 (+0.9%)	98.1%
営業利益	550 (+3.5%)	480 (-12.7%)	430 (-21.9%)	111.6%
経常利益	568 (+2.3%)	500 (-12.0%)	440 (-22.6%)	113.6%
四半期純利益	331 (+4.3%)	323 (-2.5%)	260 (-21.6%)	124.2%

※()内は前年同期比増減率

□ 自動車関連が回復の動きとなったほか、電子部品等もスマートフォンやタブレット端末に支えられ持ち直す展開となり、売上高はほぼ計画どおり。
しかしながら、2Q累計ベースでの過去最高となった前年同期には僅かに届かず。

□ 売上高、売上原価ともに前年同期を僅かに下回り、売上総利益は2.1%の減少。
加えて販売管理費が4.1%増加したことから、営業利益は前年同期比12.7%減の480百万円。ただし上期予想430百万円を上回る。

□ 営業利益率は15.6%と前2Qの17.7%より悪化したものの、上期予想の13.7%を上回る。

重要なトピック

1. 第5回ものづくり日本大賞 東北経済産業局長賞受賞

- ダイヤモンド焼結体工具とオリジナルCAMソフトにより、硬脆材の微細加工を可能とするシステムを構築

2. NS TOOL HONG KONG LTD. (日進工具香港有限公司) 5月より営業スタート

- 中国地区での販売強化、デリバリー拠点の確保を目的

3. 牧野工業新工場が稼動(福島県白河市)

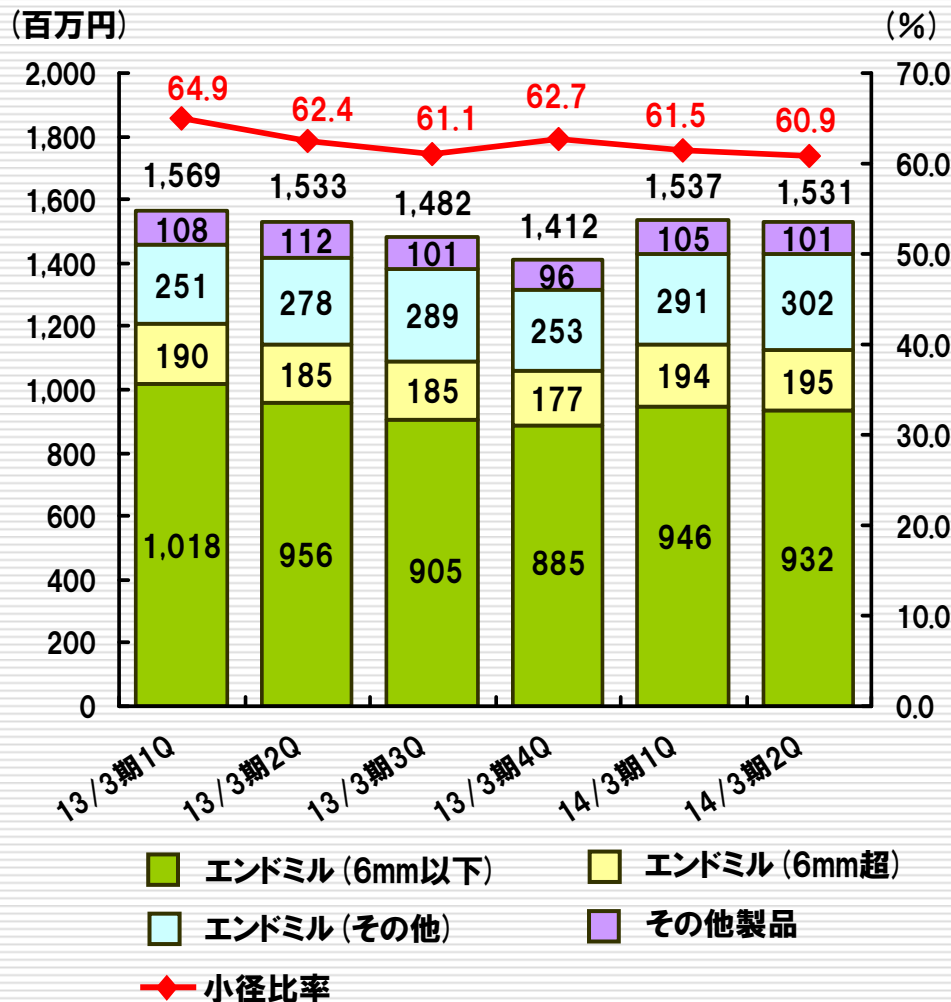
- 内製化促進により、品質アップと原価低減を図る
- 「ふくしま産業復興企業立地補助金」362百万円を受領

4. 流動性の向上を目的として立会外分売を実施

- 8月27日に155,000株(発行済株式の4.96%)の立会外分売を実施

売上高の推移① 製品別

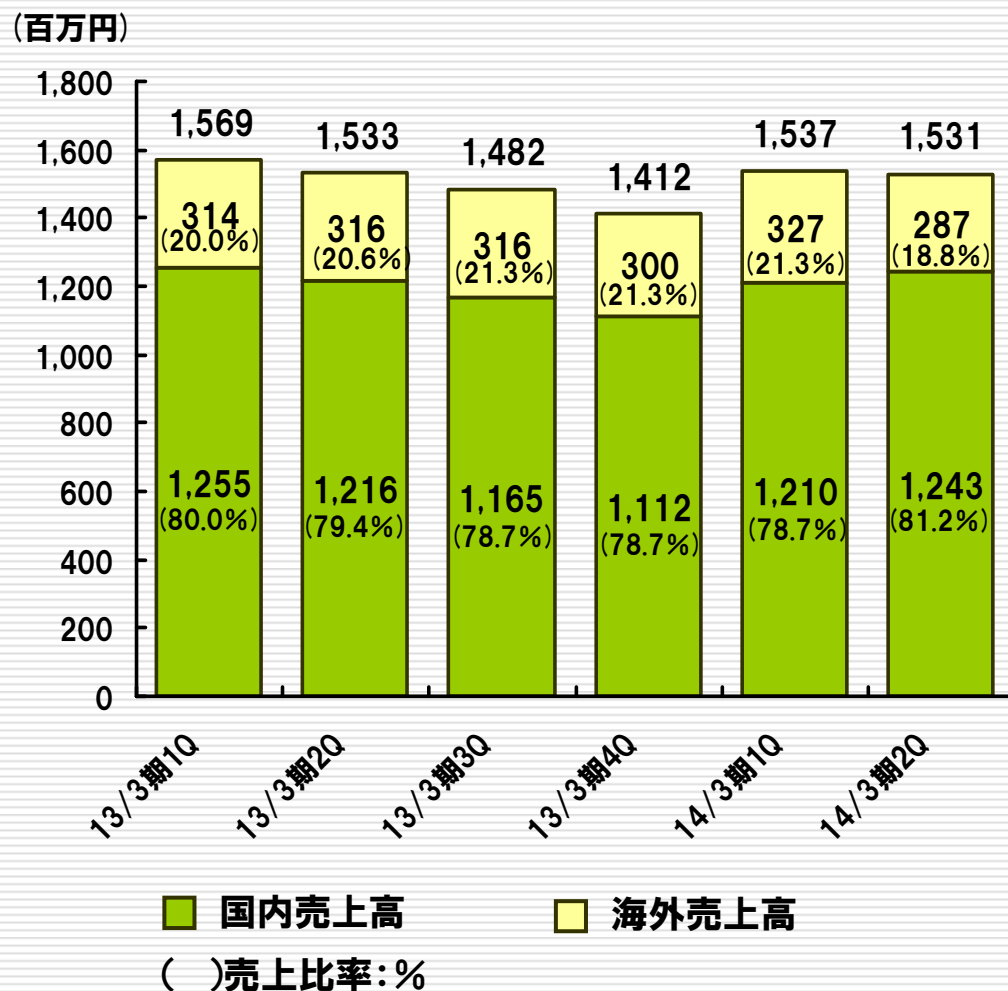
製品別売上高と小径比率の推移



- 当第2四半期の連結売上高は前年同期比0.1%減の1,531百万円。第1四半期に比べると0.4%の減少
- 自動車関連を中心に半導体等にも動きが見られ、第1四半期からの好調を継続
- 製品別では、主力の「エンドミル (6mm以下)」が932百万円と前年同期比2.6%減少したが、「エンドミル (6mm超)」が5.4%「エンドミル (その他)」が8.9%増加したため、全体としては0.1%の減少にとどまった。CBN製品や特殊品を含む「エンドミル (その他)」が伸び、小径比率は60.9%に低下

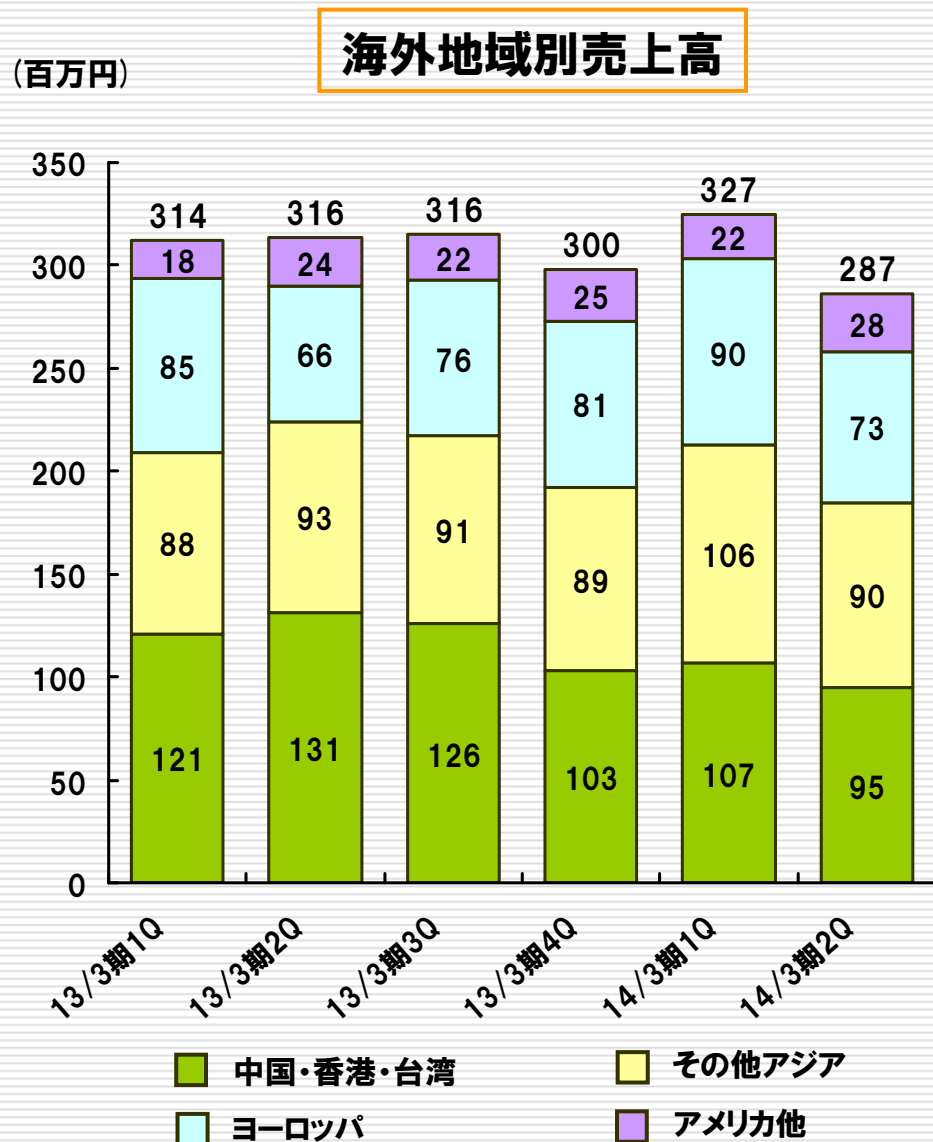
売上高の推移② 国内・海外

国内・海外売上高の推移



- 国内売上高は1,243百万円と前年同期比2.2%増であったが、海外売上高は同9.1%減の287百万円
- 国内が自動車関連の回復等から2期連続で前期比プラスとなる一方、海外は中国・アジア地域の成長減速等から特に夏場以降伸び悩み、過去最高となった第1四半期から12.1%減少
- 海外売上高比率は18.8%と6四半期ぶりに2割を割り込んだ
- 海外売上高は3Q以降の回復を見込む

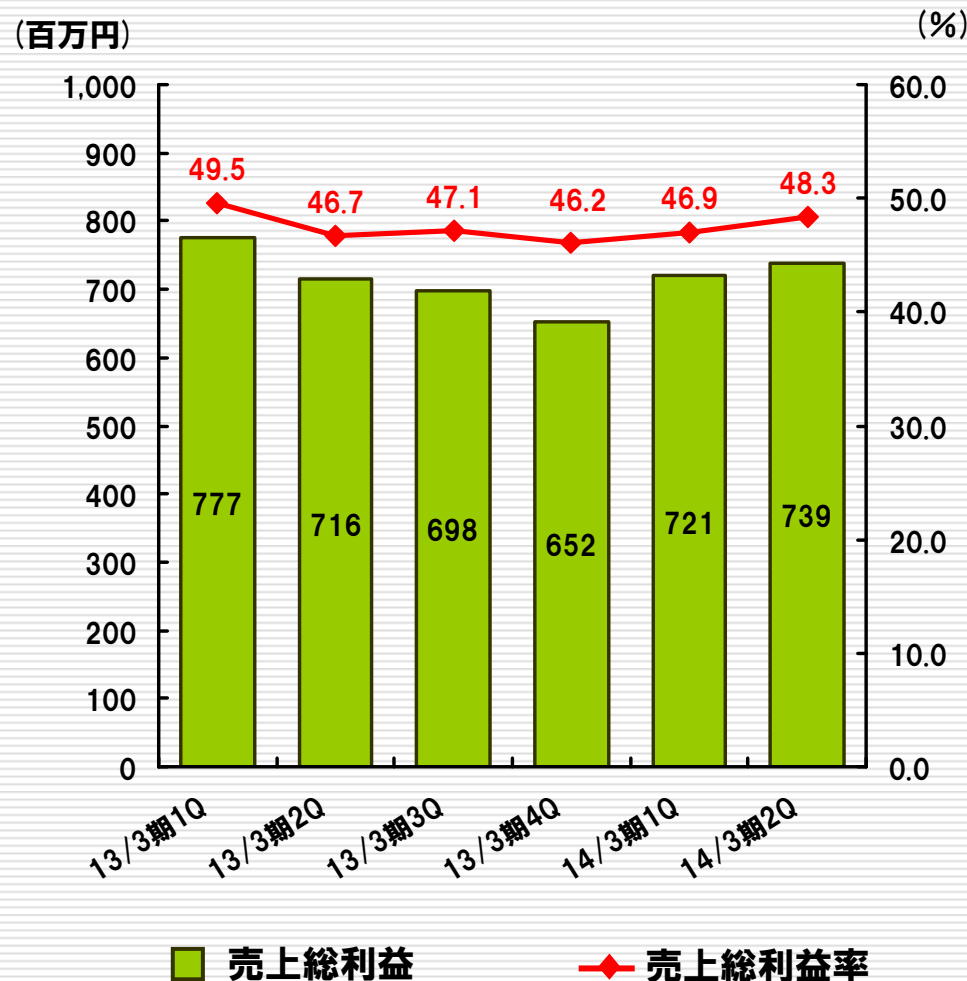
売上高の推移③ 海外地域別



- 第1四半期に比べ、アメリカ他を除いて各地域とも2桁の減少。全体では12.1%減の287百万円と6四半期ぶりの300百万円割れ
- 中国はスマートフォンやタブレット向けの需要が多く、その動向に左右されやすい。新商品向けの作り込みが一段落し、前期比11.2%減。
- その他アジア(東南アジア)は同15.4%減と厳しい状況。タイでは自動車販売減が続く等、アジア経済全体に減速感が出ており、伸び悩みの状況
- 債務問題が残る欧州も前期比18.5%減と下げたが、もともと夏休みが入る第2四半期は減少する傾向があり、前年同期比では11.2%の増加

売上総利益の推移

売上総利益と売上総利益率の推移



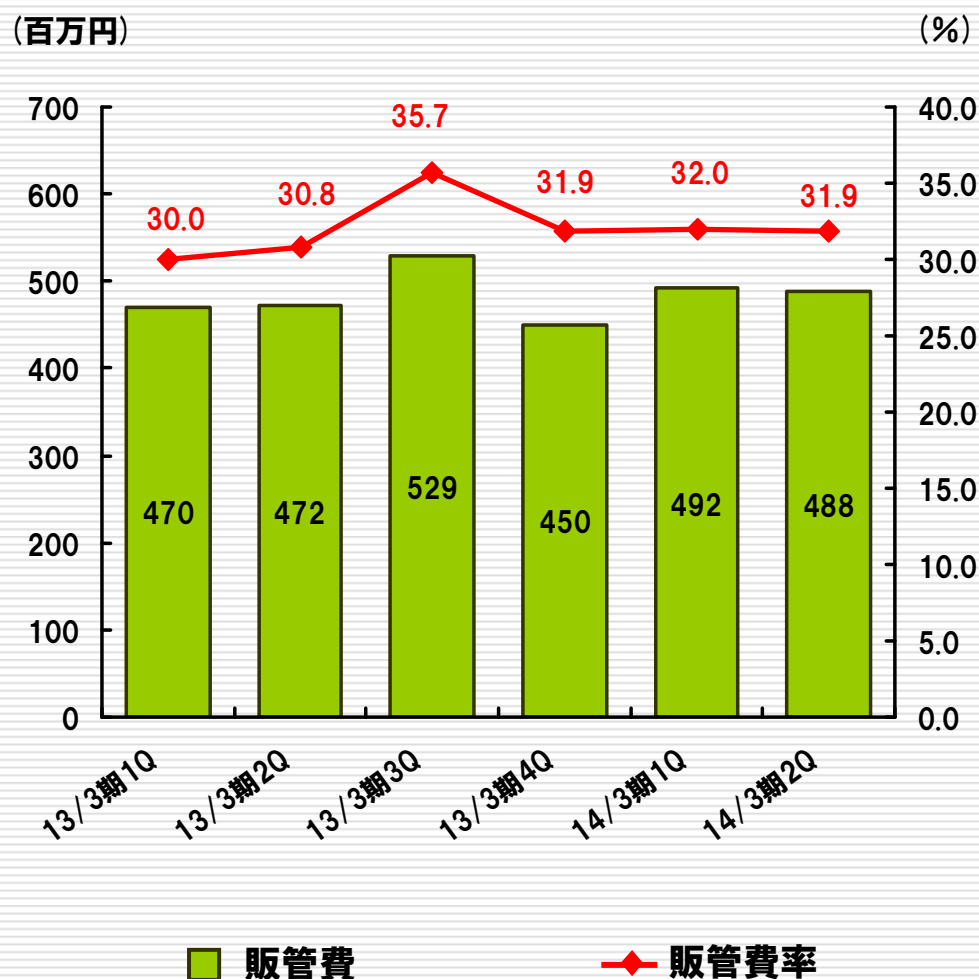
- 子会社新工場稼働による人員増から労務費が6.7%上昇したが、外注加工費の減少等により製造経費が抑えられ、製造原価は前年同期比1.9%増の806百万円。日進工具香港の連結調整により商品仕入が減算となり、売上原価は同3.1%減少の791百万円

※日進工具香港は12月決算のため、連結時に3ヶ月のタイムラグが発生

- 売上高は0.1%の減少となったが、売上原価が3.1%減ったことにより、売上総利益は前年同期比3.3%増加の739百万円。売上総利益率も48.3%と同1.6ポイントアップ
- 通期の売上総利益率は46.5%を想定

販管費の推移

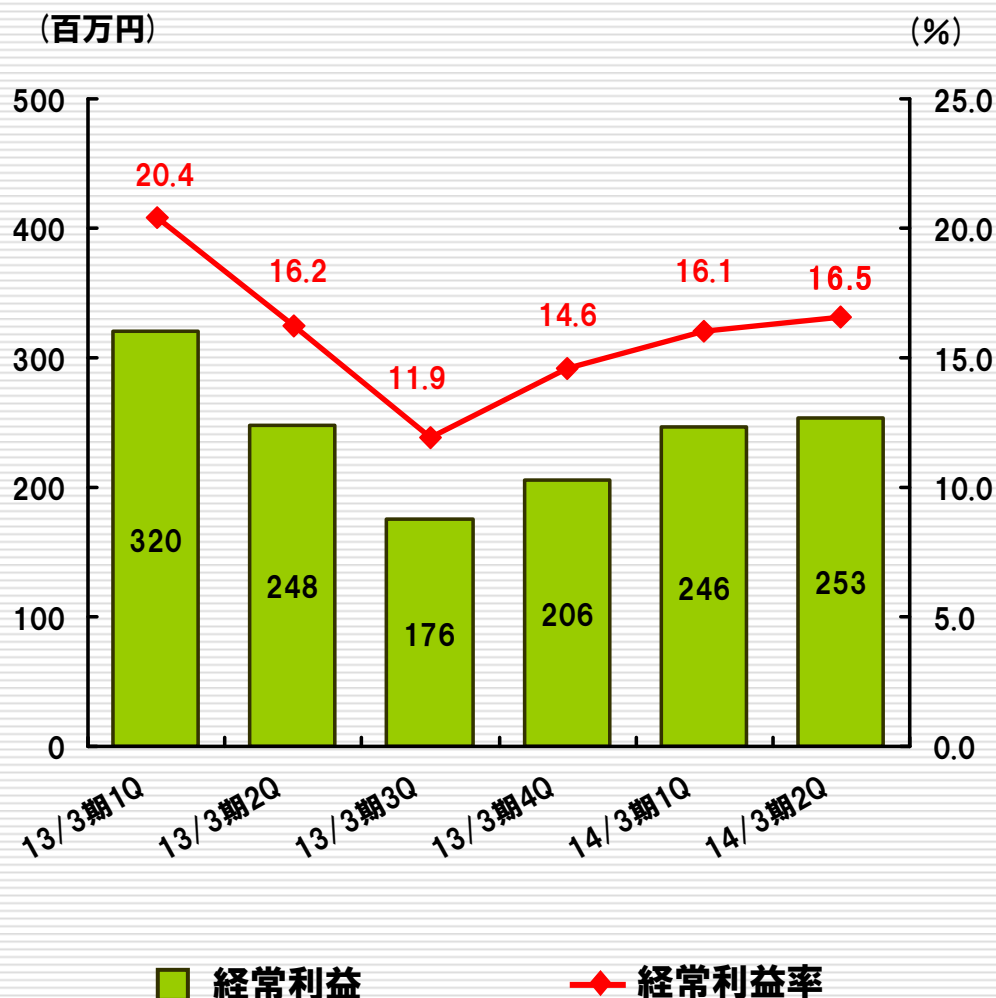
販管費と販管費比率の推移



- 販売管理費は、EMO(国際金属加工見本市)への出展に伴う展示会費や、総合カタログ増刷による広告宣伝費の増加等から、前年同期2.4%増の488百万円。
- 期初予算に対してはほぼ予定どおりの水準。販管費比率は31.9%と直近3四半期ではほとんど変わっていない。
- 11月に仙台工場での展示会開催を予定、展示会費が上乘せとなるものの大きな影響は無く、通期ベースでの販管費比率は31.0%を予想

経常利益の推移

経常利益と経常利益率の推移



□ 経常利益は前年同期比2.0%アップの253百万円

□ 売上高経常利益率は同0.3ポイント改善して16.5%

□ 経常利益は前年の第3四半期をボトムに金額・比率ともに回復傾向となっている

□ 通期の経常利益率は16.1%を想定

□ なお13/3期1Qは増収と生産効率アップで利益額及び利益率ともに高水準であった

損益計算書サマリー

(百万円)

	2013/3期2Q	2014/3期2Q	前年同期比	コメント
売上高	3,102	3,069	-1.1%	自動車関連を中心に回復基調が継続するも、過去最高となった前年同期には僅かに及ばず
売上総利益(率)	1,493 (48.1%)	1,461 (47.6%)	-2.1%	増収と生産効率アップ効果で高水準であった前2Qより減速したが、予算を上回る着地
販管費(率)	942 (30.4%)	980 (32.0%)	+4.1%	国内外での展示会出展、総合カタログの増刷等により前年同期を上回ったものの、ほぼ計画どおりの水準
営業利益(率)	550 (17.7%)	480 (15.7%)	-12.7%	売上総利益減、販管費増により、営業利益は前年同期比12.7%減少、営業利益率は2.0ポイント後退して15.7%に
経常利益(率)	568 (18.3%)	500 (16.3%)	-12.0%	経常利益率は2.0ポイント低下し16.3%。但し昨年3Qの11.9%を底に持ち直しの傾向続く
当期純利益(率)	331 (10.7%)	323 (10.5%)	-2.5%	
設備投資額	628	290	-53.8%	子会社新工場が稼動し新規設備投資が一巡、通期でも前期比3割強減少の見込み
減価償却費	261	273	+4.5%	4月からの新工場稼動により子会社牧野工業では前年同期比2倍弱になったが、下期は補助金による固定資産の圧縮記帳で月間5百万円程度の減少見込む
従業員数	260人	285人	+5.6%	子会社新工場稼動に伴う人員増と新卒採用により増加

※()は売上高に対する比率

貸借対照表サマリー

(百万円)

	2013/3	構成比	2013/9	構成比	前期比
(資産の部)					
I 流動資産	4,337	52.3%	5,029	59.2%	+16.0%
現金及び預金	1,913	23.1%	2,476	29.2%	+29.4%
受取手形及び売掛金	831	10.0%	889	10.5%	+6.9%
商品及び製品	820	9.9%	896	10.6%	+9.3%
II 固定資産	3,960	47.7%	3,461	40.8%	-12.6%
有形固定資産	3,654	44.0%	3,175	37.4%	-13.1%
無形固定資産	44	0.5%	7	0.1%	-84.0%
投資その他の資産	261	3.2%	278	3.3%	+6.5%
資産合計	8,297	100.0%	8,491	100.0%	+2.3%
(負債の部)					
I 流動負債	875	10.5%	840	9.9%	-3.9%
買掛金	99	1.2%	227	2.7%	+128.5%
II 固定負債	316	3.8%	343	4.0%	+8.5%
負債合計	1,191	14.4%	1,184	13.9%	-0.6%
(純資産の部)					
純資産合計	7,106	85.6%	7,307	86.1%	+2.8%
負債・純資産合計	8,297	100.0%	8,491	100.0%	+2.3%

□ 子会社での「ふくしま産業復興企業立地補助金」受領により現金及び預金が増加、また受領に伴い固定資産の圧縮記帳を実施したことにより有形固定資産が減少

□ 日進工具香港向けに製品在庫の拡充を図ったため、商品及び製品が増加

□ 無借金経営
(有利子負債額はゼロ)

□ 自己資本比率86.1%と強固な財務体質を維持



3. 2014年3月期の業績見通し

業績予想見通し

2014年3月期の業績予想

(百万円)

	2013/3 実績	2014/3 予想	前期比	コメント
売上高	5,997	6,340	+5.7%	アベノミクスによる円高修正や景気回復期待、米国経済の堅調等を背景に増収を見込む
営業利益	921	1,000	+8.5%	売上総利益率は46.5%と0.9ポイント下がるが、増収により売上総利益は3.7%の増加を見込む。また販管費比率を31.0%に抑え、営業増益を見込む
経常利益	951	1,020	+7.2%	
当期純利益	527	620	+17.5%	前期先行投資から赤字となった子会社の業績改善を見込む
設備投資額	1,001	645	-35.6%	子会社新工場への投資で増加したが、今期は通常レベルに戻る計画
減価償却費	563	583	+3.5%	設備投資増加の影響が今期は通年におよぶため、減価償却費が上昇
EPS	168.75円	198.34円	+17.5%	
1株当り配当金	39円	40円	+2.6%	配当性向20%を目標

2Q時点における進捗状況について

2Q実績は順調だが、通期予想は据え置き

(百万円)

	当2Q 実績	当下期 予想	通期 予想	当2Q 進捗率
売上高	3,069 (-1.1%)	3,271 (+13.0%)	6,340 (+5.7%)	48.4%
営業利益	480 (-12.7%)	520 (+40.2%)	1,000 (+8.5%)	48.0%
経常利益	500 (-12.0%)	520 (+35.8%)	1,020 (+7.2%)	49.0%
当期純利益	323 (-2.5%)	297 (+51.5%)	620 (+17.5%)	52.1%

- 売上高は通期予想に対して48.4%の進捗率
- 各利益は48.0%~52.1%の進捗率とほぼ計画通り
- 国内景気の回復傾向が続くなか、底堅い米国経済や日中関係悪化の影響が薄れつつあること等、比較的良好な外部環境が見込まれるため、通期見通しは据え置き
- 前下期は円高や日中関係の悪化等で急減速。当下期は反動増となる

※()内は前年同期比増減率

2014年3月期の重点戦略について①

1. 高付加価値製品の販売強化

- CBN製品やPCD製品のバリエーションを増やすとともに、それらの特長を活かした加工方法や技術情報を充実させ、ユーザー層の拡大を図る



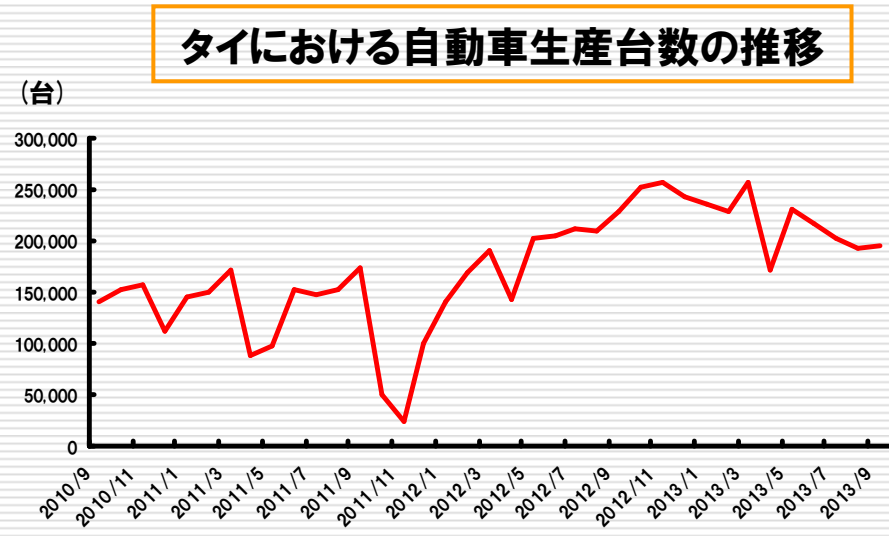
2. 商品力の見直し

- Made in Japanの性能と品質 ⇒ 精度・寿命・効率性などにおいて、より高い次元の製品を安定的に供給し、差別化を図る

2014年3月期の重点戦略について②

3. アジア販売強化

- 香港に在庫を持つことで、中国地域におけるデリバリーを改善し販売増を図るとともに、タイを中心にASEANにも注力する



4. コストダウンの強化

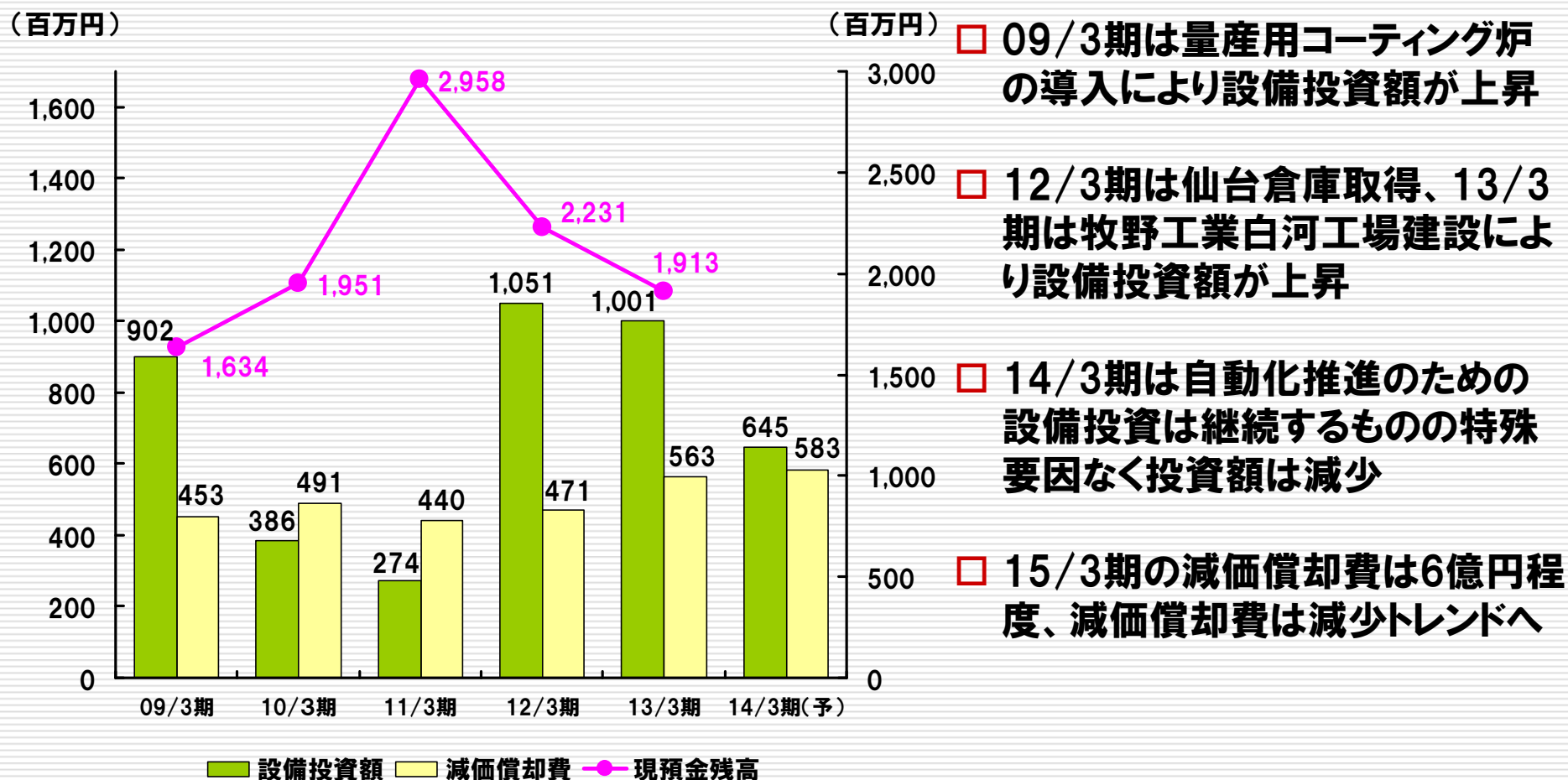
- 自動化や無人化等の製造面でのコストダウンに加え、販売管理費等についてもグループ全体で低減を図る

～自動化・無人化の進捗状況～

自社開発工具研削盤による自動化3ライン ⇒ 更なる拡大へ

設備投資と減価償却費のトレンド

設備投資、減価償却費及び現預金残高の推移



- 09/3期は量産用コーティング炉の導入により設備投資額が上昇
- 12/3期は仙台倉庫取得、13/3期は牧野工業白河工場建設により設備投資額が上昇
- 14/3期は自動化推進のための設備投資は継続するものの特殊要因なく投資額は減少
- 15/3期の減価償却費は6億円程度、減価償却費は減少トレンドへ

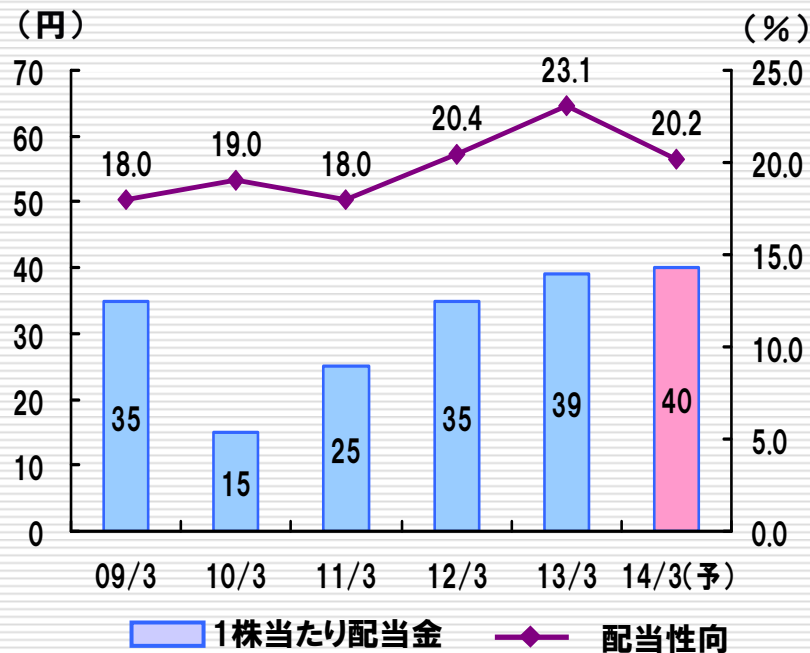
(左軸:設備投資額・減価償却費、右軸:現預金残高)



4. 最後に、マーケットの皆様へ

株主還元について（増配と株式分割）

① 配当の推移



業績に応じた利益還元
(配当性向20%を目標)

- 2013年3月期は株式分割の際に配当を上方修正し、1株当り39円
- 2014年3月期は増益を見込むため1円増配し1株当り40円を予定 (業績予想に対する配当性向は20.2%)

② 株式分割を実施 : 2012年10月1日に1株 → 2株の株式分割を実施

③ 立会外分売を実施 : 2013年8月27日に155,000株の立会外分売を実施 (発行済株式の4.96%)

■ 従来からの経営課題であった「流動性」の改善を図り、投資家の利便性向上へ

一層開かれた株主総会を目指して

第52期(2013年3月期)の株主総会の概要

開催日時	2013年6月22日(土) 10:30~11:30
会場	大森東急イン 5階 フォレストルーム (JR大森駅直結)
御土産	・JCBギフトカード1,000円 ・海苔・海苔煎餅セット

第52期の株主総会について

1. 昨年度と同じく株主様のご来場しやすい土曜日に開催

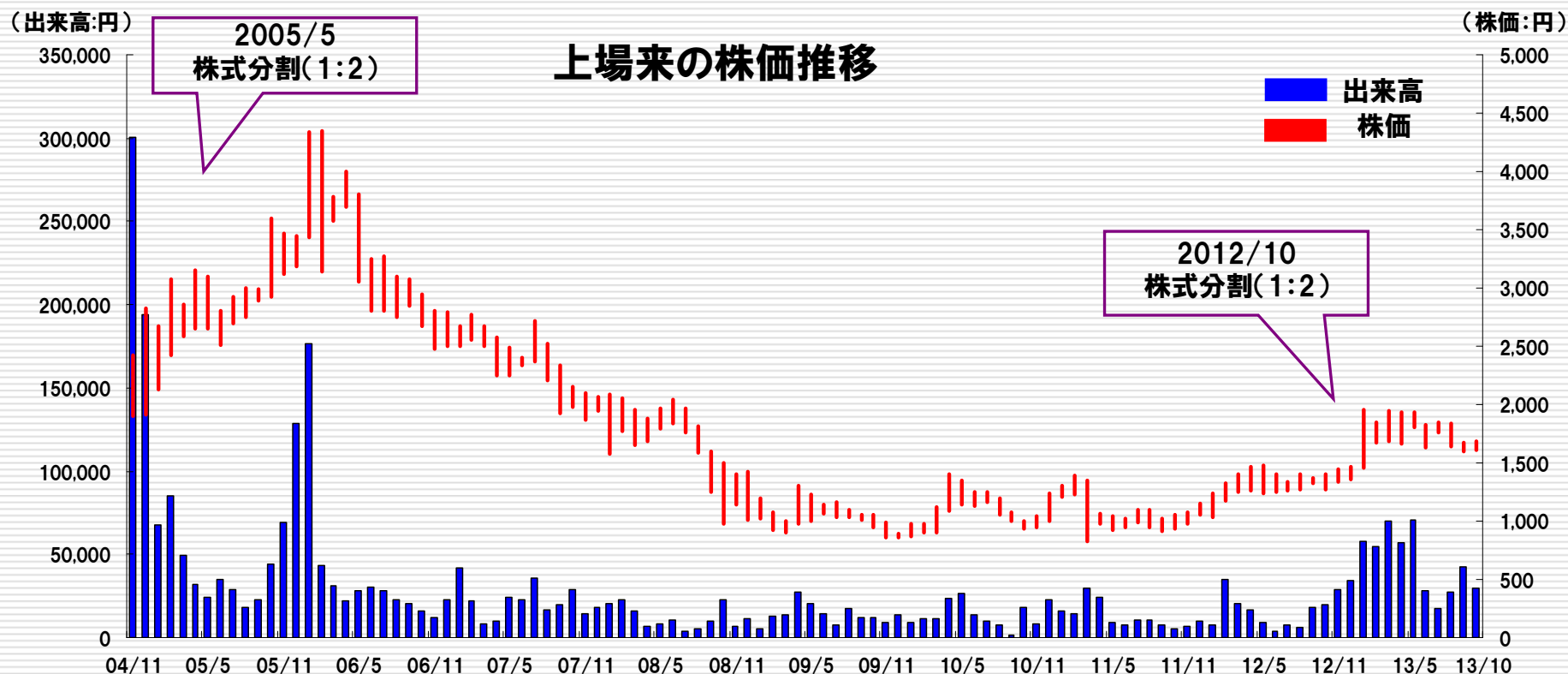
参加人数は68名となり、昨年度に比べ19名増加いたしました

2. 活発な質疑応答

質疑応答では16件の質問があり、全て代表取締役社長の後藤弘治がお答えいたしました

第53期(2014年3月期)の株主総会も株主満足度の一層の向上を目指します

株価推移とバリュエーション



バリュエーション(2013年10月30日現在)

時価総額 : 53.1億円

自己資本比率(13/9期実績) : 86.1%

PER(14/3期予想) : 8.57倍

有利子負債依存度(13/9期実績) : 0%

PBR(13/3期実績) : 0.75倍

ROE(13/3期実績) : 7.7%

IR情報サイトのご案内



メニュー表示

「トップメッセージ」、「よくあるご質問」、「IRお問い合わせ先」
⇒メニュー各クリックで各ページに移動します

それ以外はメニューにカーソルを合わせると各メニューの
詳細ページ項目が表示されます
(項目クリックで該当ページに移動できます)

投資家の皆様へ

投資家の皆様に特にご覧頂きたいページをピックアップしています

IRニュース

適時開示情報や説明会のお知らせ、レポート更新など最新の
IR情報を掲載しています

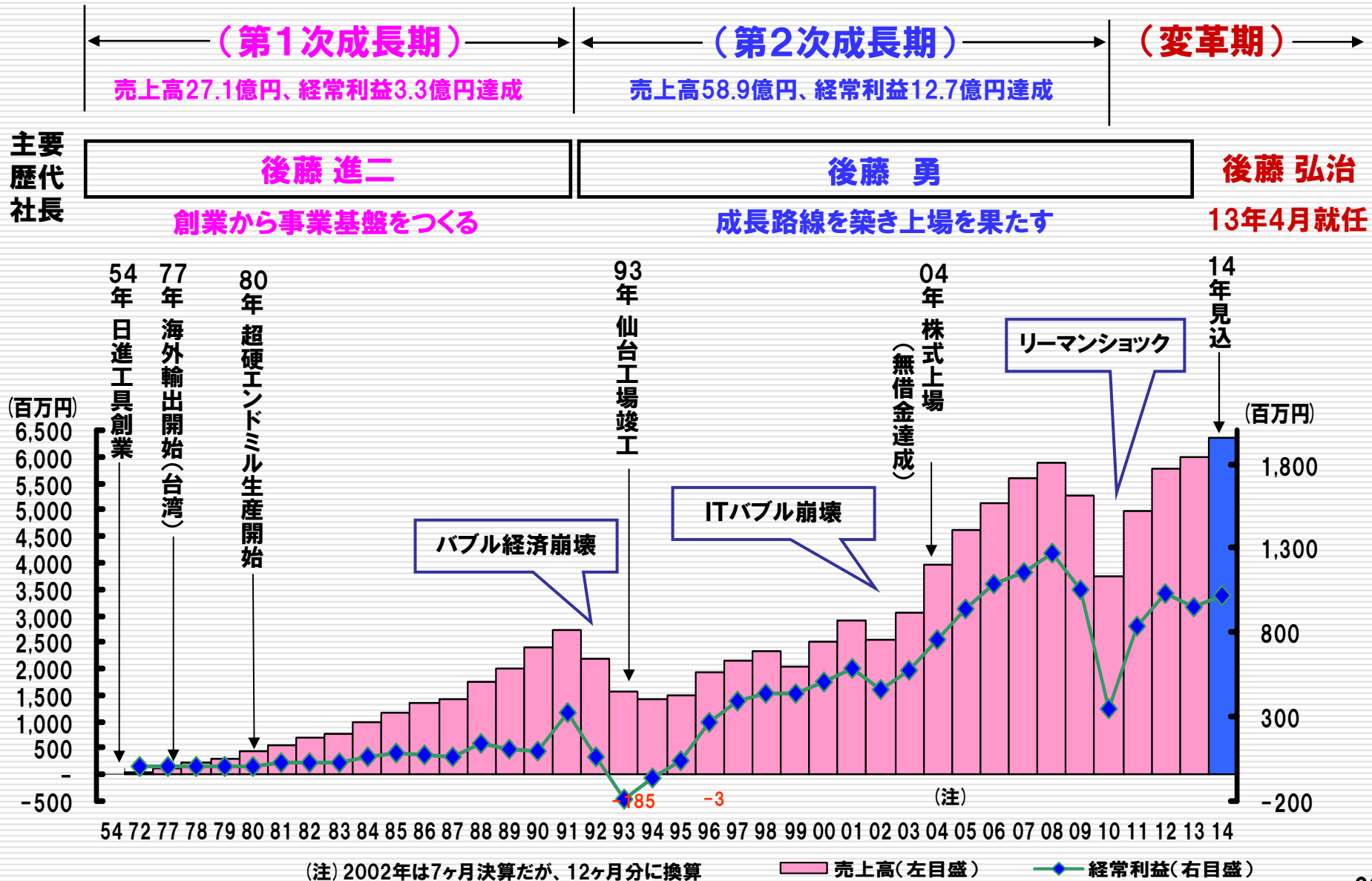
「IRニュース一覧へ」をクリックすると、表示されていない過去の
IRニュースをご覧いただけます

メニュー項目

ワンクリックで各メニューの詳細ページに移動できます

URL: <http://www.ns-tool.com/ir/>
当社に関する一層の理解を深めていただくためにも是非ご活用ください

<参考資料>①創業時からの売上高・経常利益推移

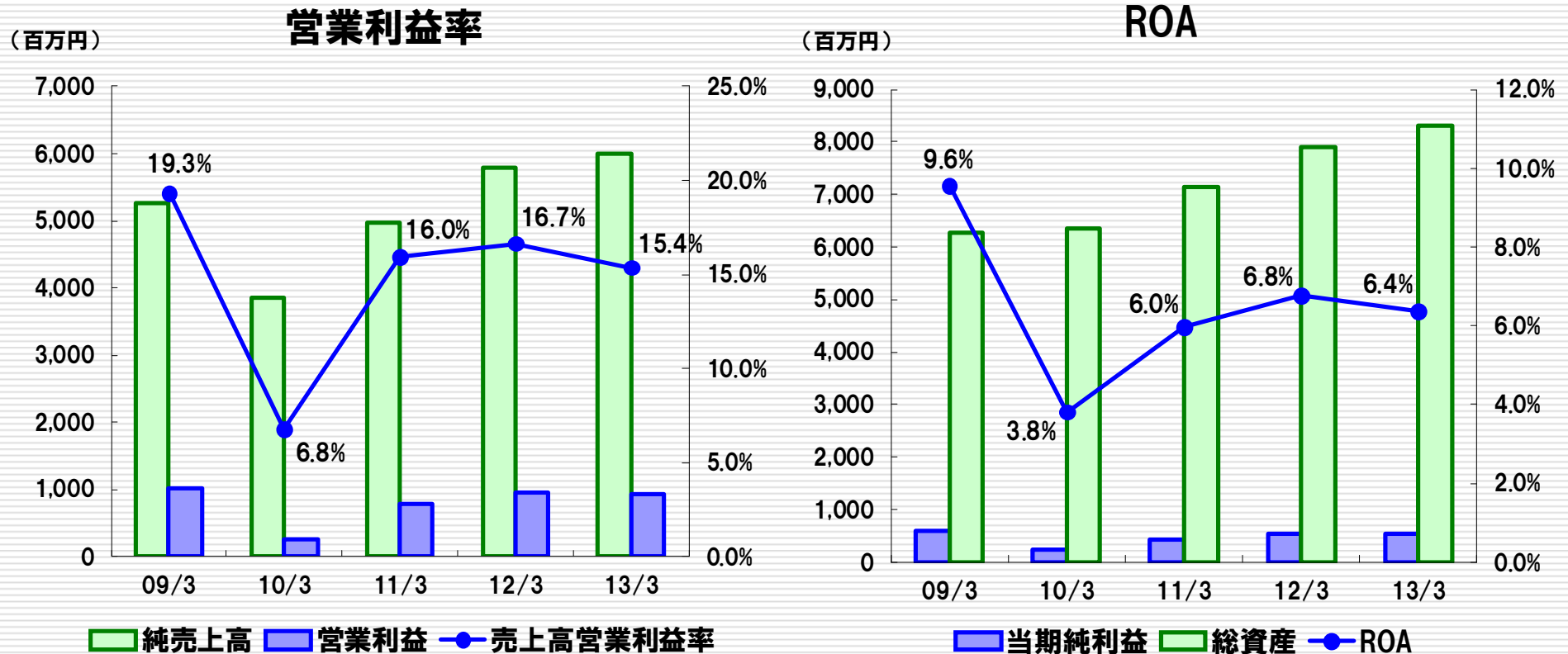


<参考資料>②過去5年間の業績と主要データの推移

(百万円)

	2009年 3月期	2010年 3月期	2011年 3月期	2012年 3月期	2013年 3月期
売上高	5,251	3,857	4,977	5,781	5,997
経常利益	1,052	361	834	1,032	951
当期純利益	598	242	426	535	527
有利子負債額	0	0	0	0	0
純資産額	5,649	5,784	6,164	6,678	7,106
総資産額	6,265	6,363	7,143	7,906	8,297
自己資本比率	90.2%	90.9%	86.3%	84.5%	85.6%
設備投資額	902	386	274	1,051	1,001
減価償却費	453	491	440	471	563
1株当たり 配当金	35円	15円	25円	35円	39円
従業員数	205人	205人	206人	232人	281人

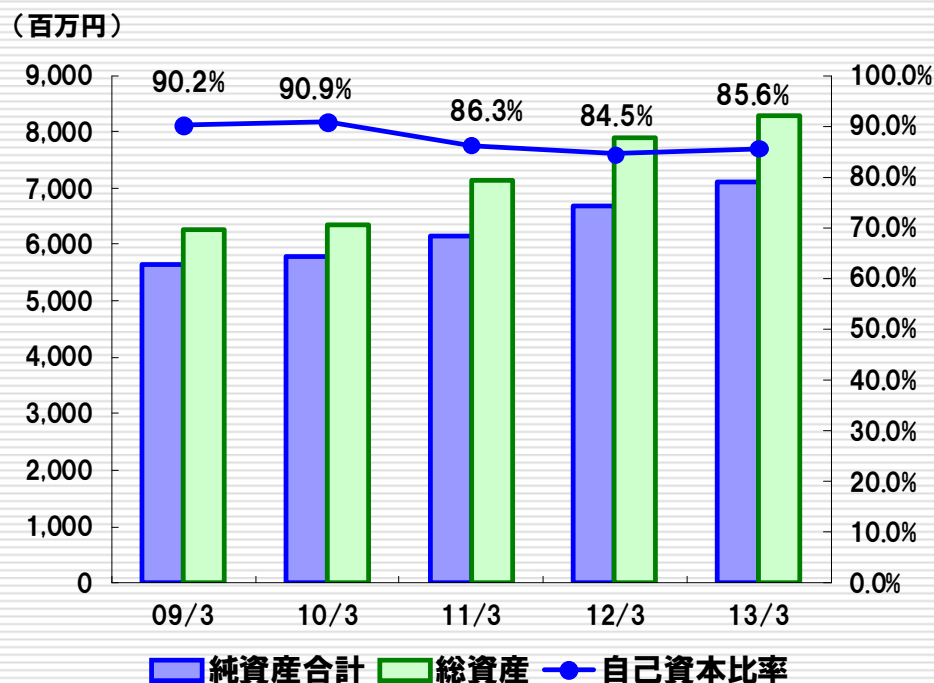
<参考資料>③収益性(売上高営業利益率とROA)



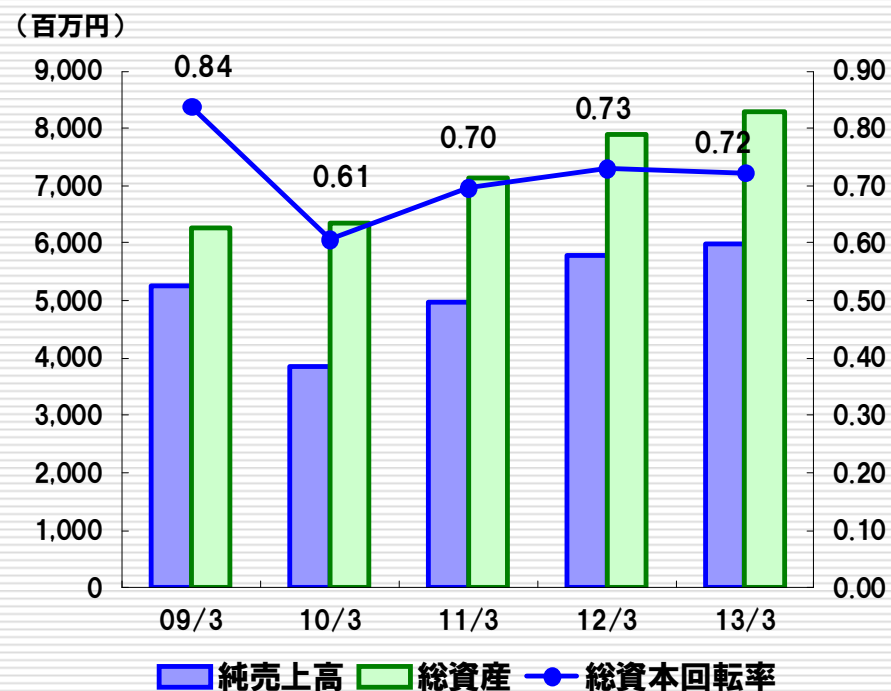
リーマンショックを境にして回復傾向、ただし13/3期は子会社の先行投資等から利益が伸び悩み、営業利益率、ROAとも前期比マイナスであった。14/3期は子会社新工場に対する補助金支給等製造経費の圧縮が見込まれ、営業利益率・ROAともに改善を見込む。

<参考資料>④安全性、効率性(自己資本比率・総資本回転率)

自己資本比率



総資本回転率



連結子会社の増加により総資産が増えたが、自己資本比率は85%の高水準を維持。総資本回転率もリーマンショックの影響で低下した後、徐々に回復。ただし13/3期は売上拡大が鈍り前期比0.01ポイントの減少。

2014年3月期のIR活動目標

日進工具株式会社 IR活動目標（2014年3月期）

1. 企業の認知度向上に努め、事業内容の理解促進に注力いたします。
 - ◆ 個人投資家向け説明会を年3回以上開催いたします。
 - ◆ アナリスト・機関投資家向け決算説明会を本決算・第2四半期決算の年2回開催いたします。
 - ◆ 個人投資家向け説明会、アナリスト・機関投資家向け決算説明会で使用したIR資料や質疑応答の内容については、可能な限りウェブサイトに掲載して広く公開いたします。
2. 企業理念並びに経営戦略を、情熱を持ってお伝えいたします。
 - ◆ 個人投資家向け説明会、アナリスト・機関投資家向け決算説明会については、すべて代表取締役社長の後藤弘治が直接説明し、すべての質問に回答いたします。
 - ◆ アナリスト・機関投資家との個別取材については、すべての取材依頼に対応いたします。
なお、取材の際は代表取締役社長の後藤弘治またはIR担当役員の田島寛のいずれかが必ず対応いたします。
 - ◆ 日進工具の企業価値や事業戦略を理解していただけるよう、明快なIRツールの提供を目指し、説明会で使用するIR資料並びにウェブサイトの改善に取り組みます。
3. 中長期のステークホルダーを増やし、株主満足度向上に邁進いたします。
 - ◆ 株主・投資家の皆様の声を経営にダイレクトにフィードバックし、企業価値の向上に努めます。
 - ◆ 電話やメールでのお問い合わせについては、原則としてすべてに対応いたします。
なお、多く寄せられる質問につきましては、ウェブサイトのFAQコンテンツに掲載し、広く公開いたします。
 - ◆ より多くの株主の皆様にお越しいただけるよう、株主総会を土曜日に開催いたします。
なお、株主総会では原則としてすべての質問に回答いたします。
 - ◆ 株主の皆様は、配当性向に配慮しつつ業績に応じた適切な利益還元を実施いたします。

IR活動の実践状況について

(2013年9月末)

◇ IR体制

- トップ直轄の体制
- 社長（後藤弘治）－ 執行役員（田島寛）－ IR担当（今関弘毅）

◇ 主要IR活動

- 2014年3月期のIR活動目標の対外的公表
(2013年5月13日発表)
- 個人投資家向け説明会（11月29日開催予定）
- アナリスト・機関投資家向け説明会（5月28日開催 / 11月27日開催予定）
- アナリスト・機関投資家向け個別取材対応
- 決算説明資料の充実とレベルアップ
- ホームページのリニューアル 継続
- 株主総会の土曜日開催（2013年6月22日）

お問い合わせ

日進工具株式会社

執行役員管理部長 田島 寛 / IR担当 今関 弘毅

TEL : 03-3763-5672

FAX : 03-3764-8225

E-mail : ir@ns-tool.com

将来予想に関する記述については、目標や予測に基づいており、
確約や保証を与えるものではありません。
予想と異なることがある点を認識された上でご利用ください。